

INDEX

- | | | |
|-------------|----------------|-----------|
| ① 巻頭言 | ⑥ 高齢者施設より | ⑭ 役員会報告 |
| ② 滝寺お花まつり | ⑦ 児童施設より | ⑮ 新任施設長紹介 |
| ③ 新規採用職員研修会 | ⑧ 法人広報PRチーム発足 | ⑯ 人事紹介 |
| 新規採用職員抱負 | ⑨ アジア社会福祉従事者研修 | ⑰ 決算報告 |

社会福祉法人 宝山寺福祉事業団 〒630-0257奈良県生駒市元町2-14-8桃李館内 TEL:0743-74-1172/FAX:0743-74-1911

巻頭言

「戦後八十年」

理事長 辻村 泰範

戦後八十年の今年は、昭和の年号でいえば昭和百年となる。私事ではあるが、母は大正十五年の生まれなので数え百歳だ。残念ながら最近は何となく喋らないので、昔話を聞くことができなくなった。顔を近づけて泰範ですよと名乗ると、じつと不思議そうな顔つきになってニコツとしたようなので、わかってくれているのかなと思うのだが、すぐまた目を閉じてしまう。滝寺に子どもたちの家を作ろうと、新婚早々の彼女が創設者の故泰圓と生駒の草深い山道を登ってきたのは終戦の翌年、昭和二十一年の秋であった。大正八年生まれの父泰圓は、師匠である宝山寺住職駒岡乗圓和尚の命を受けて説得に訪れた宝山寺の事務長酒井貞一氏の懇請を受けて山（高野山）を下りる決意をしたという。母峯子二十一歳、父泰圓二十七歳、育児の経験のまだない新婚夫婦であった。最初の施設愛染寮の開寮記念写真に写っている人々は、もうどうな

たもいらっしやらない。我々自身国民の九十%近くが戦後生まれとなった今、終戦直後の荒廃した状況を自分の記憶に留めている人はほとんどいないということだ。当時の写真や記録によって想像する他ないのだが、幼い頃に聞かされた話がまだ自分の記憶に残っている間に先人の苦労や努力を語り継いで行かねばならないと切実に思うようになった。戦争の悲惨さ、非人間的な行為など戦争そのものは許すことのできない悪業であること、二度と許してはならないのはもちろんなのだが、重要なのは敗戦という現実から先人たちはどのようなにして立ち上がったのかということだ。戦後八十年を考える意義はそこにあると思う。

昭和二十三年夏のキャンプの写真が残っている。愛染寮の子供たち三十人ほどが大きなテントの前に勢揃いしている。みんなに「お父ちゃん」と呼ばれた寮長の泰圓師、「兄ちゃん」と呼ばれていた新田さん、「おかあちゃん」と呼ばれた母が一歳の私を抱いて他の職員と一緒に写っている。きつと川遊びの後なんだろう、男の子は裸にフンドシ、女の子も裸に白いパンツ姿だ。おそらく寮の全員で出かけたのだろう。あの時代にである。綿密、周到な計画が立てられていたようには思えない。「やるぞ!」「行くぞ!」の心意気であったのではなからうか。何もかもがお膳立てされたいわゆる最近のアウトドアブームの柔なキャンプとは大違いである。我々はあの頃の人たちが持ち合わせていたエネルギーとチャレンジ精神を忘れてはいないだろうか。子どもたちに本当に必要な大事な体験をさせているのだろうか。母にキャンプの話聞いても答えてくれないのが残念だ。



木津川河原笠置キャンプ



令和7年度

お花まつり実行委員長

特別養護老人ホーム梅寿荘

堀本 卓史

さる4月20日の日曜日に、法人の大切な行事である滝寺おはなまつりが開催されました。コロナ禍の影響で、近年は規模を縮小して開催していましたが、この度、遊び屋台や食べ物屋台の規模を拡大して開催することとなり、法人各事業所から、施設長さんはじめ、実行委員さん参加職員さん、その他、法人を支えてくださった方々との協力の下、準備を進めてきました。春の季節、天気が周期的に変わり、最後の最後まで天気予報とにらめっこしていましたが、当日は風も穏やかで、気温もちょうどよく、日差しも優しく、絶好の開催日和となり、終始温かい雰囲気の中で開催することができました。お稚児行列、灌仏会に参加くださった子供たち、保護者の方々はじめ、多くの方々の笑顔に出会い、職員一同、当法人の理念である「志存興法 念在利生」の精神を改めて学ぶ機会となりました。地域の皆様や、同じ法人で働く各事業所の職員同士、交流の場としても活かされ、それぞれの置かれた場所で働く方々に刺激を受け、気持ちを新たにすることができました。

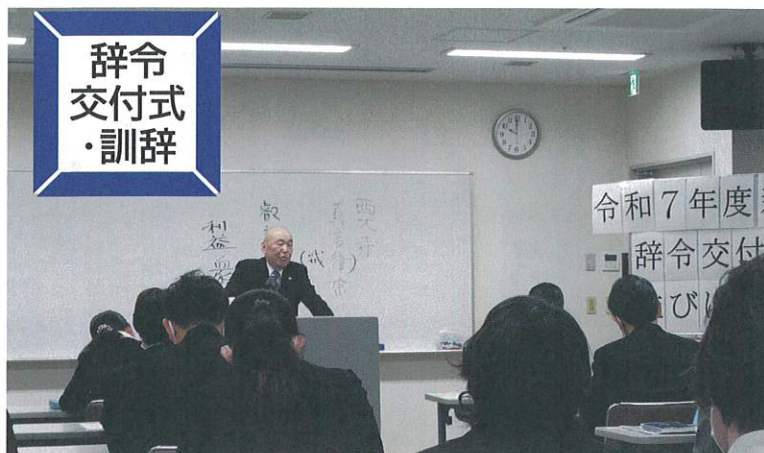




今回、実行委員長として参加させていただき、多くの方々に支えられ、無事故で終わることができました。至らない点、多くの反省点もありましたが、来年度以降に活かせるよう、繋いでいければと思います。ありがとうございました。



辞令 交付式 ・訓辞



辞令交付式では、理事長より一人ずつ辞令を受け取り、緊張した表情や笑顔など様々でしたが、法人の一員としてこれから頑張っていこうという前向きな気持ちが感じられました。

理事長訓辞では、法人創設時より掲げてきた理念「興法利生」について、歴史を振り返りながらお話いただきました。理念でもある「困っている人を助ける」ということは、「福祉を実践する」ということであり、法人の職員として理念を意識し、福祉活動をしていく。

この「実践」をすることの重要性について述べられました。

講義

法人施設の施設長や職員、外部の講師の先生に依頼し、講義をしていただきました。

それぞれの講義において、具体的な事例の提示やグルー

プワークの実施などがあり、社会人として、法人職員として理解しておくべきことについて、わかりやすく、楽しく、仲間と共に学ぶことができました。新採用職員の皆さんは、この学びをそれぞれの職場で活かし、今後活躍されることと思います。講師の皆様、ありがとうございました。



コンプライアンス：梅寿荘デイセンター センター長 伊藤 智宣

理解力・伝達力：やすらぎの杜延寿 生活相談員 大崎 万希

リスクマネジメントの理解：児童養護施設愛染寮 心理相談員 緒方 優子

接遇マナー：（正規）フェリアン 津村 薫先生

（契約）梅寿荘在宅介護支援センター センター長 斉藤 洋子

新採用職員からのメッセージ

『初心を忘れずに』

特別養護老人ホーム延寿 介護職員 辻 明香

今年の四月から介護職員として働くことになりました辻明香です。

私が介護関係に進もうと思ったきっかけは父が福祉関係の仕事をしていたためです。高校三年生まで進路も特に決まっておらず迷っていたときに父から「介護は？」と言われたことから始まりました。始めは何となくで専門学校に入学し介護について勉強をしていましたが、入った当初は「自分に合ってるのか」

「卒業して数年後も介護の仕事が続いているのだろうか」という不安の中、学校に通っていました。しかし在学中に、延寿で一ヶ月間実習をさせていただく機会があり、ご利用者とのコミュニケーションをしている和やかな様子や介助の様子を見て「私もここで働きたい」と強く思いました。

高校の友達と会う機会がありその際に「なぜ介護？」と聞かれることが多くあります。高校の時は進路について自分から話すことがあまりできませんでした。ですが、今は自信を持って自分の仕事について話をする事ができます。自分が身につけた知識

技術が人のためになることが少し誇らしく思えます。私の両親も還暦を迎え、将来の生活について目を見始めました。両親の介護について不安な部分もありますが自分の持っている知識を活用できたらいいと思っています。

働き始めて一ヶ月ほど経ち独立の時期も迫ってきています。始めは何をすればいいのかわからず戸惑ってしまうこともありましたが、最近では自分ができることとはなにか探し、少しずつ自分が自分から行動できることが増えてきました。仕事内容に慣れるまで不安なことがたくさんありましたが、グループの先輩方が逐一「分からないことはないか」、「不安なことはないか」など聞いてきてくださり、質問しやすい空気です。わからないことをわからないままにすることなく仕事内容を覚えていくことができています。

これから大変なことがたくさんあると思いますが初心を忘れずに自分が身につけた知識に自信を持って仕事に取り組んでいきたいと思っています。

令和7年度 新規採用職員 辞令交付式 研修会



令和7年度の新規採用職員辞令交付式並びに研修会が、契約職員は3月27日の1日間、正規職員は3月27日・28日の2日間行われ、契約職員6名・正規職員24名が受講しました。

法人研修委員 黒川 美穂（梅寿荘）

施設 見学

正規職員は、研修1日目に県内にある法人の施設13か所と滝寺・宝山寺・元興寺の見学に回りました。それぞれの場所での滞在時間は短かったですが、各所で担当者からの説明を聞き、メモを取るなど熱心に見学している様子が見られました。

自身の職場以外の施設や関連する寺院に行き、直接話を聞くという経験は、とても貴重な良い機会になったと思います。



『春からの新たな一歩』

極楽坊あすかこども園

保育教諭 栗田 万琴



私はこの春から、宝山寺福祉事業団の一員となり、極楽坊あすかこども園で保育士としての道を歩み始めました。環境や仕事に慣れることに精一杯だった一ヶ月、

クラスの子たちが朝集まる教室がどこなのか、通園バッグに何をいれてきてどんな準備をしているのかもわからない状態からのスタートでした。しかし、たくさんの方の先生方や保護者の方に支えられながら、ひたすら前へ進んできたように感じます。

保育の現場では、子どもたちとの信頼関係がとても大切です。しかし、その信頼関係はすぐに築けるものではありません。ご飯の時間や午睡の時間、クラス運営の中で「まだ子どもたちと十分な信頼関係ができていない」と感じることも多々あります。

「私がいらないほうがクラスはまとまるのではないか」と思うこともあります。しかし、そんな中でも、少しずつ「先生」として

での存在が認められていく瞬間があります。例えば、「お姉ちゃん先生」から「先生」と呼ばれるようになったとき、保護者の方に質問をしていただいたとき、教室に入ると子どもたちが駆け寄ってきてくれるとき。そんな何気ない場面のひとつひとつが、保育士としての喜びであり、やりがいを感じる瞬間です。

私にはもう一つ大きな不安があります。それはピアノが弾けないことです。音楽は保育の中で重要な要素の一つですが、音楽の授業以外でピアノに触れたことがありません。それでも、まずは子どもたちと一緒に歌うことから始め、楽しみながら少しずつ挑戦していきたいと思っています。

保育の仕事は大変なこともたくさんありますが、それ以上に子どもたちの成長をすぐそばで感じられる素晴らしさがあります。毎日初めて知ることに溢れています。これからも、子どもたちと共に学び、成長し続けていきます。そして、保育士という仕事に誇りを持ち、一人ひとりの子どもたちと真剣に向き合いながら、温かく信頼される存在になれるよう努力していきたいです。

高齢者施設より

6p

■ 老人福祉施設梅寿荘

8p

■ 特別養護老人ホーム延寿
■ 梅寿荘デイセンター・デイセンター憩の家

10p

■ デイセンター寿楽

7p

■ 老人総合福祉施設あくなみ苑
■ 生駒市梅寿荘地域包括支援センター

9p

■ はあとぽーと梅寿荘
■ 梅寿荘居宅介護支援事業所



一味同心となって

毎年、年度始めには法人の事業方針を職員皆で理事長から話を聞き一味同心となれるように思いを一つにします。

また、施設の事業計画も時間をとって皆で共有しました。事業の進捗状況を常に確認できるようにと昨年度の反省も顧みて、それに対して新たな目標を立てて、しっかり前に進めていかなければいけないと思っています。

令和7年度となって感染症に対する見方も随分落ち着いたとはいえ、私たち高齢者施設にとっては、まだまだ脅威で対処が困難であると感じています。そんな中だからこそ再度、感染制御の基本に立ち返り施設全体で再確認をして感染源を「持ち込まない・広げない・持ち出さない」を常に心がけるように意識していくことを共有し

老人福祉施設 梅寿荘

特養・次長／養護・施設長 森本 公子

ました。何よりも生活の場として安心安全であることがご利用者にとって居心地の良い場所であり安住の地であると思います。そのうえで日々を楽しんでいただける取組に力を注いでいきたいと思っています。



お楽しみのおやつ作り!

新しいあくなみ苑にむけて

新しい年度を迎えました。と同時に、三室園組合より指定管理を受けて運営しているあくなみ苑としては最後の年度となります。施設譲渡を受ける来年度に向けて、新規事業所としての県への申請や手続き、施設内の整備等が山積し、地域への発信や周知していただくための広報活動も必要となります。目まぐるしい1年が予想されますが、新生あくなみ苑に向けて奮闘する年になりそうです。

そして、あくなみ苑の建物はもうじき30年を迎え、老朽化に伴い修繕箇所も増えています。

老人総合福祉施設あくなみ苑

主任生活相談員 小森 康志

施設設備をどのように改善していくか、考えると頭が痛くなる課題が多くあります。ですが、当法人が管理運営する立場になる事で、自由に活動できることも増えていきます。これからは、一人一人の職員があくなみ苑をどのように運営していくか、自分たちで考えて行動できるような職場環境作りをしていきたいです。今後も地域の基幹施設として認知され、地域で困っている方たちのセーフティネットとして活動していけるように、そして未来に繋げていく新生あくなみ苑を目指して頑張っていきます。

そこに居るだけで

地域包括支援センターの4つの業務は、総合相談、介護予防ケアマネジメント、権利擁護、包括的継続的ケアマネジメントですが、特にここ数年は虐待や不当な契約締結などの被害の防止・早期発見をめざすための権利擁護業務が増えています。職員の職種は様々ですが、1職種だけでは応じきれず複数で取り組み、それだけでなくセンター単独では対応できない世帯全体の複合化・複雑化した課題などに的確に対応するため、各制度ごとの相談支援機関や、他分野多職種との連携も必要となってきました。また地域では住民の皆様が、主体的に地域の課題について把握し解決を試みることができるような体制づくりを、どのように支援できるかは考えていかなければならない大きな課題で、市や市内他のセンターと共に事業計画書を検討作成し、

生駒市梅寿荘地域包括支援センター

センター長 岩井 香奈子

具体的な取り組みを進めています。

新年度に入ると各担当者は、出来上がった事業計画の進め方について迷い、逆にこうしていきたいという希望も入り交じり悩みます。そんな折に、「このひめゆり通信をいつも手に取ると、センターの名前を探し記事を読む。地域にセンターが居るだけで心強く思っている。」と、数年ぶりにお元気になられた方が立ち寄りお声がけ下さいました。仕事を計画通りに進め実績を重ねていくことは大事でそれに追われる日々ですが、年度はじめに私たちが本当に大切にしないといけない地域包括支援センターの仕事の醍醐味や役割、職員個々の仕事に対する熱意や思いを振り返る機会となり、忘れてはいけないことを教えていただきました。

基本の大切さ

今年度の特養は新卒の職員が1名入職し4月がスタートしました。昨年の9月に1ヶ月間、延寿に実習生として学びにきた職員です。当時から観察力が高く、しっかりと勉強しているのが印象的でしたが、一緒に働くようになってからもその姿勢は変わっていません。決められた業務を丁寧にこなし、分からない事があれば直ぐに確認をする、といった基本的なところは、こちらも見習う部分があります。「初心忘るべからず」という言葉があるように、私達も基本を大切に丁寧な仕事を心がけなければと思っています。まずはチャレンジしてコツコツと一歩ずつ成長

特別養護老人ホーム延寿

介護主任 大平 達也

していくことで、5年10年経った時に経験値に差がでてくるのではないのでしょうか。可能性に自分でボーダーラインを引きフタをするのではなく、「自分もやってみよう」と思うことが大事ですね。

昨今、介護分野でもICTや介護機器などの新しい技術や医療の知識などを求められています。それをスルーし続けると進歩しなくなり、施設も職員の成長も停滞してしまいます。今年度もたくさんコミュニケーションを図り委員会を活性化させ、チャレンジ精神旺盛な職員の育成と職場づくりに努めます。

力を合わせて

梅寿荘デイセンター・デイセンター憩の家

センター長 伊藤 智宣

梅寿荘デイセンター・デイセンター憩の家では、ご利用者お一人おひとりに寄り添うケア、笑顔になっていただけるサービス提供を大切にしています。そのためには何より大切にしていることは、スタッフ同士のチーム力です。

介護はスタッフ一人でできる仕事ではありません。スタッフ全員が日々声をかけあい、情報を共有し、協力しあうことで、ご利用者が楽しく笑顔で過ごしていただける環境を心がけています。こうしたチーム力の継続と積み重ねによって、ケアの質は向上していくと思っています。

このチーム力は、直接ご利用者とケアを提供する介護職・看護職、そして相談員だけのチームではなく、厨房・事務などの事業所内のスタッフ全員のチーム力を今まで以上に高めていきたいです。これは、永遠の課題で、目標です。

実際、このチーム力が高まってきたことで、ヒヤリハットや小さなミスが減少した現状があります。反面、今まで気づけなかったヒヤリハットや小さなミスが新たに気づき、対応を考えることで、全体的に事故にいたることが減ってきました。

チーム力を高めるためには、相手に協力してもらっただけでなく、それ以上に自分自身が相手にどれだけ協力するのか。この姿勢が大切だと思っています。

ご利用者に笑顔になっていただくだけでなく、ご利用者の生活を支えるために、チーム力を高めていきます。

ご縁を大切に

平成3年2月に、はあとぼーと梅寿荘が創設されてから、早34年の月日が流れました。最近、以前訪問したお宅を訪問することがあり、「父や母がお世話になっていました。今度は、私たちがお世話になります。」とご挨拶されます。

私達ヘルパーも長く訪問を続けていると、2世代にわたり関わるが増えてきました。お父様やお母様の思い出話を交えての会話もあり、梅寿荘とご縁がありますとお聞きすると、長年地域で皆さんから頼られてきた事業所であると感じます。

はあとぼーと梅寿荘

主任サービス提供責任者 金田 智子

新規契約の時に、以前梅寿荘のボランティア活動をしていた方や、法人の他施設でお世話になっていた事業所の担当ケアマネージャーからの紹介と、さまざまな方とのご縁を感じます。日々、真面目に仕事を継続していることが、このような目に見えない不思議なご縁を頂いているように思います。創設以来、ご利用者の訪問をしてきましたが、各諸先輩方が親切、丁寧な仕事を重ねてこられたから、現在のはあとぼーと梅寿荘に繋がっていると思います。今までの出会い、これからの出会いのご縁を大切に今後も皆さんから信頼される事業所を目指します。

より良い支援を目指して

居宅介護支援事業所は、ケアプラン作成が一番の業務になります。介護保険の目的である、「自立支援」と「尊厳の保持」について、適切にケアマネジメントを行うことです。昨年度末に、行政によるケアプラン点検と、その後に「ケアプラン点検から見えた課題について」の研修を受ける機会がありました。ケアプラン点検では、帳票の内容や記載漏れ等の指導を受け、研修では適正なケアプランと適切なケアプランの視点について学びました。適正は、制度や規則に適合しているか・適切は、個々の利用者に適切なケアが提供されているかでした。

梅寿荘居宅介護支援事業所

センター長 斉藤 洋子

研修の機会を通して再確認したことは、作成したケアプランがケアマネジメントプロセスを踏まえているか常に検証・確認が必要であるということでした。確認・検証することで職員ひとり一人の気づきを促し、資質向上することが求められています。

私たちの業務が適正・適切に行われることが、利用者のより良い支援に直結することを忘れることなく、日々のケアプラン作成業務に取り組んで行こうと思います。

地域に開かれた施設に向けて

デイセンター寿楽

主任生活相談員 中島 淳

冬の寒さもようやく和らぎ、生命の息吹を感じる新緑の季節となりました。送迎の道すがら見える冬枯れの生駒山も、日に日にその姿を緑に染め、新たな季節の訪れを教えてくれています。

さて、令和7年度を迎えるにあたり、デイセンター寿楽では「地域に開かれた施設」を目指し、ご利用者お一人おひとりの豊かな暮らしを支えるとともに、地域共生社会の実現に向けて取り組んで行くことを目標としています。

特に本年度は、お買い物や季節の行事など、地域とのつながりを感じられる機会の充実を目指し、ご利用者の皆様が社会との接点を持ち続

けられるような支援を実現したいと思っています。

しかしながら、昨今の物価高騰や人材不足の影響により、施設だけの力ではこうした取り組みを継続・拡充することが難しくなっております。そのため、地域の皆さまやボランティアの方々と連携し、行事やイベントを積極的に企画・実施することで、多世代が交流できる場を創出していきたいと考えております。

本年度も、デイセンター寿楽が介護の場にとどまらず、地域の誰もが気軽に立ち寄り、安心して過ごせる居場所となるよう、職員一同力を合わせて努めてまいります。



今年の桜は満開の期間が長く、たくさんのご利用者とお花見ができました



児童施設より

11p ■ こども支援センターあすなろ

13p ■ 児童発達支援いっぽ
■ あすかの保育園

15p ■ 児童発達支援センター仔鹿園
■ いこま乳児保育園

17p ■ 愛染寮

12p ■ いこま乳児院
■ 平城児童センター

14p ■ 奈良県発達障害者支援センターでいあー
■ いこまこども園

16p ■ 極楽坊あすかこども園

延長支援を拡充しました！

これまで、「こども支援センターあすなろ」での延長支援は限定的な実施となっていました。(利用児童一人につき年間10回までで、申請理由も保護者の方の妊娠・出産やきょうだい児の学校行事といった場合に制限させて頂いていました。)

それは児童発達支援センターの目的が、「療育(日常生活における基本的な動作及び知識技能の習得並びに集団生活への適応訓練その他の支援)を行う」ことで延長支援が必ずしも求められていなかったことと、「あすなろ」が延長を行っても、全く収入につながらなかったためです。

一方、近年の社会情勢から、フルタイムなど長い時間で就労されている保護者の方が増え、延長支援のご要望は年々増加していました。また(※)レスパイトケアの潜在的ニーズもかなりあると思われたため、「あすなろ」としては、いずれ9:00～17:00の時間帯での延長支援を実施したいと考えていました。

幸いなことに、令和6年度の国の制度改正で、「あすなろ」が延長支援を行った場合、ある程度の収入を頂けるようになりました。それを知った職員の間で「大幅な赤字にならないのなら完全実施しましょう」という声が高まり、この4月から「こども支援センターあすなろ」の毎日通園クラスでは、延長支援を拡充し、回数や申請理由の制限をなくし、平日の9:00～17:00の間、サービス提供時間(10:00～15:00など)の前後について、お子さんのお預かりを始めました。

こども支援センターあすなろ

センター長 廣岡 幸夫

1か月過ぎたいま、毎日数名の方が利用されています。ある保護者の方からは「めっちゃ、助かってます」という感想を頂きました。「あすなろ」を利用されている方はもちろん、「延長支援があるなら、利用を考えてみたい」と思われる方、どうぞご相談ください。

(※)レスパイトケア 乳幼児や障がい児、高齢者などの育児や介護をしている家族に、支援者が一時的に代替することで、家族の方に休息やリフレッシュしてもらうこと。



ピンチをチャンスに

私は、乳児院に勤め始めてから13年目になりました。今までは、前主任に頼りきりだった私が、昨年度より副主任、本年度より主任という大役を引き受けることになりました。私の心の中は、なんてことだ・・・と不安だらけ。家に帰っても浮かんてくることは、自分の弱みの部分で、このままでいいのかと悩みは尽きませんでした。でも、ここが踏ん張りどころ。私にできることからきっちりやっていこうと前を向きました。

初めは、徐々に現場から離れることにも寂しさを感じていましたが、私は今の立場で、こども達の為になる事をしようと考えています。その中で、職員を大切にしたい、職員の気持ちを上げていきたい、と改めて思いました。

いこま乳児院では、職員の誰もが自分の考えを伝えられる雰囲気大切にしています。今年度より、養育の質を向上させる為、「やってみようミーティング」というのを設けようと思っています。入社2年目から5年目の職員を対象に2～3人のグループで実施します。

いこま乳児院

主任保育士 廣津 小百合

自分の経験や研修を活かし、こどもへの思いやいこま乳児院でやってみたい事、必要だと思われる事を出し合い実践してみよう！職員の考えをみんなで共有しよう！というコンセプトです。自分の気持ちを伝え、相手の気持ちを聞く、そして、それを全体に共有するという試みに、今からワクワクしています。(うまくいきますように…)

私にとっては、どの職員も大切な仲間です。長く一緒に働けるように、こどもと同じよう、丁寧に関わっていきたいと思っています。



子どもの意見を尊重 さまざまな児童館活動を

令和7年度は、「はじめのいっぽ」「どろんこの森」「地域とのふれあい交流」の通年サークル活動を実施しています。

小学生のサークルは定員を超過する申込みがありましたが、事業内容や引率できる職員等を考慮して最終的に継続する児童を含めて28名にしました。保護者が希望される活動は「家では体験できない活動」「自然とのふれあい」「他の児童との交流」「あたらしいことへの挑戦」などでした。

令和7年4月には「児童館ガイドライン」が改正され児童館の活動内容では①遊びによる子どもの育成 ②子どもの居場所の提供 ③子どもが意見を述べる場の提供が必要とされています。

センターではこれまでも「子どもが話し合い自ら遊びを作り出すこと」や「活動に自由に意見を言うこと」を大切にきており、毎年希望する活動のアンケートを実施しています。希望が多かったのは「キャンプ」「夏祭り」「流しそうめん」「遠足」「餅つき」「科学不思議実験」「水族館・動物園」などでした。

平城児童センター

センター長 徂徠 おさむ

今年度は子どもの希望する遊びの拠点と様々な活動・挑戦・体験ができる居場所となることを通して、子どもたちの健やかな成長・発達と児童の交流が一層深まるように取組んでいきたいと考えています。



自然とのふれあい

寄り添う事を大切に

いっぽは36名の子ども達と共に令和7年度のスタートを迎えました。
平成27年に開所し、今年で13年目を迎えます。開所当時に通所してくださり、卒園されたお子さんは中学生や高校生になっておられます。先日、業務の関係でたまたま初期の頃に通所してくださっていた卒園生のお母様にお会いする機会がありました。遅くなった現在のお写真も見せて頂き「あの頃は大変お世話になりました。大変だったあの頃の療育があったおかげで、今も元気に学校に通っています。」「当時はどうしたらいいのかわからなかった。大変な時にいっぱい話を聞いてくださってありがとうございました。」とありがたいお言葉を頂きました。職員みんなでお子さんに向き合い、お母様ともたくさんお話をさせて頂いて一緒に考えさせてもらった事が実を結んでいるのだと、とても暖かい気持ちになりました。

児童発達支援いっぽ

主任保育士 大島 友美

いっぽの支援目標の一つは『親子の安定を図り、一歩前へ踏み出せるように寄り添い、応援できる支援を行う』です。大変な時に専門的なアドバイスをする事はもちろん大切ですが、それだけではなく『寄り添う事』『一緒に悩み、考える事』を大切に、子どもたち、そして保護者の方々に『応援出来る』ように、今年度も職員一同、精進していきたいと思ひます。



たけのこ、でてるかな〜??

地域の幼稚園交流

これまで地域の幼稚園と、年長児を中心に年に1~2回交流をしてきました。普段元気いっぱいな子ども達も、幼稚園に行くと恥ずかしくて保育士の傍から離れず、なかなか遊べなかったりすることもあり、園での様子と違う一面も見られるので、いろんな場所で普段と違う友だちと触れ合うことも大事な経験だと感じていました。

今年度は地域の幼稚園の在園数の減少を受けて、幼稚園のほうから、年間通して定期的に交流をしていきたいというお話がありました。園とは違う集団の中でも、自分の思いを伝えながら、たくさんの友だちとの触れ合いを通して仲間意識を深められる機会と思い一緒に計画を立てました。保育園からは年長・年中児が主に参加、幼稚園は全園児の参加となり、年齢に合わせた目的や内容を検討しました。

「あすかのキッズ」と名称もつけ、集団を意識しながら、季節感を味わえる遊びや、公園などお互いの園以外の場所での交流も計画しました。

また職員同士も交流を通して、子どもの育ちを違った角度から見る機会としてとらえ、様子の変化

あすかの保育園

園長 小林 美香

を見逃さないように情報を共有して、日々の保育に生かすことができればと思っています。

同じ地域の幼稚園との交流の回数を重ねるごとに遊びの幅を広げながら、今後のこども園化も見据えながら交流を深め、就学に向けても安心できる環境を整えていきたいと思っています。



一緒に遊んだよ!

ペアレントメンター ～今年度の取り組み～

奈良県発達障害者支援センターでいあー

副センター長 大西 和幸

でいあーの取り組みの一つに「ペアレントメンター養成・派遣事業」があります。ペアレントメンターは、発達障害の子育てを経験された親御さんが、でいあーが行う養成講座を受講し登録をすることで、ペアレントメンターになって頂くことができます。現在、42名の登録があります。地域の療育施設や小学校などからの依頼を受け、依頼内容に合う方を派遣しています。活動の中では、子育ての体験談やグループでの相談会等を通して、発達の気になる子を育てている親御さんを応援する役割を担って頂いています。ペアレントメンタ

ーは専門家ではありませんが、同じような経験をされているからこそ、困っている親御さんの悩みに共感でき、優しく寄り添って話を聞いてくださっています。毎年15件前後のご依頼を頂いていますが、まだまだ知名度も低く、依頼件数の少なさが課題でした。そこで今年度は、でいあー主催のペアレントメンターによる子育てサロン等を企画し、積極的に地域へ働きかけていくことを考えています。多くの方にペアレントメンターのことを知って頂き、今後の依頼に結び付けられたらと思います。

子どもたちのために私たちができること

いこまこども園

副園長 石村 吉偉

今年度は215名でスタートした「いこまこども園」。あちらこちらで聞こえてくる新入園児の大きな泣き声が、この4月に小学校からやって来た私にとっては、衝撃的な光景でした。クラスに入って園児を抱っこし、なだめる毎日が続きました。そんな子どもたちも日を追うごとにクラスに慣れ、今では落ち着いて笑顔で過ごせています。

そんな子どもたちの笑顔を支えているのは、職員の皆さんです。日々忙しい中ですが、職員が少しでも余裕をもって働き、子どもたちに向き合えるために、本園では、ICT化を進めています。昨年度までに、指導要録、児童票、週案、日誌などをデータで作成するようにしていましたが、本年度は、延長・居残り保育記録などもデータ化しました。さらに、毎日の連絡事項をクラウド化し、

誰が開いていても、いつでも、どこでも情報を更新できるようにしました。一斉に集まり、伝達するということが難しい環境ですが、このことにより、ストレスなく情報共有ができています。そして、これらが職員の負担軽減になっています。

クラスを運営する職員にとって、「信(信用し、信頼している人の言葉に耳を傾けそれに従う)」「敬(尊敬される必要がある)」「慕(先生が好きでたまらないという時に教育・保育の実は大いに上がる)」が大切です。業務を見直したり、ICT化したりすることにより、これらを備えた職員に近づけると考えます。今後も、働き方の見直しにより職員の笑顔が増え、ひいては子どもたちの笑顔が増えるよう、新たな取組を模索していきたいと思っています。



園児と触れ合う機会の創出



業務のICT化

令和7年度がスタート

令和7年度がスタートしました。今年度もどうぞよろしくお願いいたします。

少しずつ“暖かい日々”から“暑さ”が増してくる季節です。ここ数年は春の気持ちの良い日差しの時期はあっという間に駆け抜けて、夏のような暑さの日が長い期間ある年が続いているように感じます。仔鹿園のこども達も気候の良い日は元気に園庭で遊んでいます。日々の生活の中には安全に対してたくさん気を付けることがあります。

熱中症や、怪我など。私たちは安全面で気を付けることをマニュアルや、日々の職員研修を通して職員間で周知、研鑽を行っています。これから

児童発達支援センター仔鹿園

園長 田中 一嘉

もこども達だけでなく、ご家族もさらに安心して過ごせる発達支援の場の提供に努めていきます。



変化に合わせて

3月に二歳児30名が卒園し、入れ替わって新入児18名が入園しました。例年通り賑やかで忙しい毎日になるかと思っていましたが、在園児の子どもたちが予想外に落ち着いていて、新入児さんが保育園生活に一生懸命慣れていこうと頑張っています。その気持ちに寄り添おうと保育士もクラス関係なく協力してくれています。6月ぐらいには、泣かずに好きな遊びを見つけていけるのだろうと思っています。

さて当園では、平成10年より生駒市の委託を受け子育て支援拠点事業を長年実施してきました。令和6年度の事業報告の中で、気になる報告がありました。二歳児を中心に「預かり保育」を求め



子育て広場の様子

いこま乳児保育園

園長 喜多 由希子

る保護者が増え、またそのような施設も増えているのが目立ってきているそうです。その影響か、遊びの広場には0・一歳児の子どもたちが多く来られています。その年によって、来られる年齢層が変化していているようです。私たちは、その変化に戸惑わず、支援の内容をニーズに合わせていこうと話し合っています。

今年度11月29・30日に全国子育てひろば実践交流セミナーが奈良で開催されます。私も実行委員に任命され、子育て支援の輪を広めていけるように、またこれまで経験してきた子育て広場の経緯をまとめるいい機会と思い頑張りたいと思います。



しっかり目線を合わせて

若草山へGo!

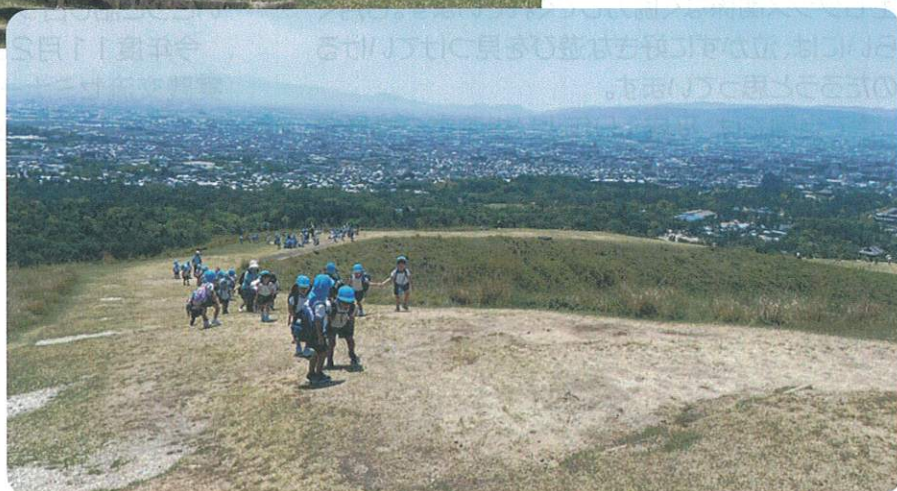
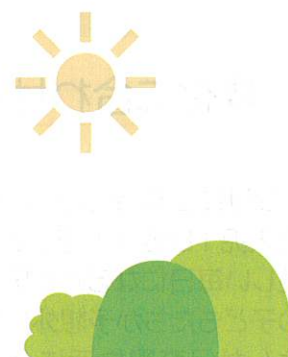
今年の春の遠足は、青組(5歳児)は若草山へ、歩いて登山に挑戦しました。5月13日の当日は晴天に恵まれ、全員揃って園を出発しました。春日大社表参道まではバスに乗り、そこから春日大社の参道を通って入山口までくると、まぶしいほどに青い芝に覆われた山肌が迫ります。それまでのなだらかな参道とは違い、急な階段の続く登山道に入ると、子どもたちの息も上がります。「しんどい〜」「おなかすいた〜」という声も聞こえてきましたが、友だち同士で手を引いたり、励まし合ったりしながら、一重目を目指します。階段を上りきり、目の前に開けてきた景色は、奈良の街中を見渡せる大パノラマ。こども園の場所を探してみたり、間近に見える大仏殿の屋根、向こう

極楽坊あすかこども園

園長 辻村 泰聡

に見える生駒山、手に届きそうなぐらいよく見えて子どもたちも大はしゃぎでした。

さて、お待ちかねのお弁当タイム。お家の方に作ってもらった色とりどりのお弁当をお友達と見せあいっこをしていました。好きなキャラクターがあらわれていたり、好きなおかずが入っていたりと、きっと朝早くからお家の方が手を掛けて作られたのだらうと感心するばかりでした。お弁当が終われば、もう一息、二重目まで登り、その後はまた下まで歩いて帰ってきました。園に帰り着いた頃には疲れた様子も見せていましたが、頑張って歩ききったという充実の笑顔で、楽しい思い出になったことと思います。



こまち、出発進行!!

愛染寮

保育士 津田 花音

「え、めっちゃ普通のお家やん!」こまちを初めて見た子ども達の第一声です。もちろん大人も。

令和7年度が始動し、新たに地域小規模愛染寮こまちホームが立ち上がり、早くも1ヵ月が経ちました。新しい場所、新しい家具、新しいメンバー何もかもが新しいものに囲まれながら、一軒家で子ども達5人が生活しています。

まだ1ヵ月しか経っていないことから、子ども達は新しい物や環境にウキウキしながら毎日を過ごしています。

「普通にお家」ということで、子ども達と一緒に買い物に行き、食材の値段を見ながら購入し料理をしたり、家の花壇の土を入れ替え、花を植えたり、時にはリビングでテレビや本を見ながらゆっくり過ごしたり、各々の時間を有意義に過ごしています。

「地域小規模」ということで、自治会や子ども会にも入り、積極的に活動に参加し、地域との関わりを深めて、今まで経験できていなかったような体験を通じて社会性を身に付けていきたいと思っています。

まだまだ始まったばかりでこれからです。子ども達の無限の可能性を見つけながら、色々なことに大人もなんせ初めてづくしなので一緒に挑戦し、子ども達と共に大人も成長できる…そんな1年にしていきたいと思っています。

時には楽しいことばかりではないかもしれませんが、ホーム皆で一丸となり、何よりも居心地が良い、温かく笑顔が絶えない「楽しきわが家、こまち」を作っていきます!



法人広報
PRチーム
発足!

宝山寺福祉事業団の広報さん

～お宝BOX～



デイセンター延寿 副主任生活相談員 矢野 健太郎



この度、法人の広報PR活動を行うに当たり、メンバー公募が行われ、我こそは!というメンバーが下記の9名集いました。普段現場で働く私達にとって、広報という分野は、全く手探りの状態ではありますが、何でもやってみよう精神で、様々な事に挑戦していきたいと思います!

広報活動の目的には、「宝山寺福祉事業団のファンを増やそう!」を掲げ、法人の活動を地域に知ってもらう事、福祉の仕事に興味を持って働いてくれる人を増やす事、などを目標に活動を始めました。まずは、法人の活動を世間に広く知ってもらう為に、広報YouTubeの立ち上げからスタートです。

早速、広報PRチームのメンバー顔合わせが行われ、チームの名称を決める所から始まりました。様々な意見が出る中、親しみを持って呼んでもらえる事・活動内容が分かりやすい事・キャッチフレーズに使える事などから、「宝山寺福祉事業団の広報さん～お宝BOX～」に決まりました!話し合いの様子は、YouTubeにアップされているので、ご覧ください。

これからも、福祉の現場や働く職員の様子・皆さんに興味を持ってもらえるような内容を、様々な視点から取り上げて、更新していければと考えているので、是非チャンネル登録宜しくお願いします!!

★チームメンバー

- 委員長 辻村泰聡(極楽坊あすかこども園)
研修委員 緒方優子(愛染寮)・大崎万季(延寿)
メンバー 濱岡亜弥(愛染寮)・下浦希実(いこま乳児院)・
中井耕大(梅寿荘デイセンター)・矢野寧奈(特養延寿)・
佐枝政夫(特養延寿)・矢野健太郎(デイセンター延寿)





第38期 アジア社会福祉従事者研修の 修了式に参加して

愛染寮 副主任児童指導員 玉田 周平

令和7年2月21日に全国社会福祉協議会灘尾ホールで、令和6年の夏に一カ月間研修に来ていたパドウマさんの修了式に参加してきました。辻村総務部長の代理ということで、私自身も緊張しておりました。さて、パドウマさんは一年間の集大成として日本語や福祉に関する勉強、そして実習を通して学んだこと感じたこと、母国に帰ってどのような活動をしたのかをパワーポイントにして発表していました。愛染寮に実習に来ていた時より日本語が上手になっており、発表も素晴らしいものでした。

パドウマさん、日本のこと、生駒のこと忘れてしまっかな？一緒にキヤンプしたりごはん作って食べたり、いろんな思い出を胸に抱きしめて、スリランカでも活躍してくださいね。

令和6年度 役員会等報告（令和7年2月～3月）

役員会 Committee

【第3回理事会】 令和7年3月26日（水） 桃李館研修室

- 第1号議案 令和6年度第二次資金収支補正予算案の承認を求める件
- 第2号議案 令和7年度事業計画及び令和7年度当初予算案の承認を求める件
- 第3号議案 諸規程改正について承認を求める件
- 第4号議案 役員等賠償責任保険の更新契約を締結する件
- 第5号議案 施設長の選任について承認を求める件
- 第6号議案 三室園組合から老人総合福祉施設あくなみ苑譲渡提案を受け入れる件
- 第7号議案 生駒市のデイセンター寿楽更新契約廃止の件
- 第8号議案 理事長、業務執行理事の職務執行状況を報告
- 第9号議案 その他

【法人苦情等対策委員会】 令和7年3月10日（月） 桃李館研修室
令和6年度法人苦情等の件数を報告し、3施設の事例検討を行った。

奈良県発達障害者支援センターでいあー センター長 土井 敏多

今年4月1日付で「奈良県発達障害者支援センター
でいあー」のセンター長を拝命いたしました
『土井 敏多(どいとしかず)』でございます。
(※ちなみに、数は多いから、多をかずと読ませていただいております)



新任 施設長 紹介

自己紹介

このたびは折角、ひめゆり通信の「新任施設長
紹介」に取り上げていただきましたので、まずは、
簡単に自己紹介をさせていただきます。

私は、7年前の平成30年(2018年)3月に県庁
を定年退職(健康福祉部長)した後、4年3カ月奈良
県中小企業団体中央会専務理事、その後2年3カ
月県内社福法人理事(本部事務局)として勤務さ
せていただいた後、今年2月からでいあーで施設
経験を積ませていただき、現在に至っております。

外向き

外向きには、でいあーの代表者として、県をはじめ
関係機関・団体等との組織的な連絡調整や良好な
関係づくり等に尽力していきたいと考えております。
(例えば、近隣各府県における取組等を参考に、でいあ
ーでも取り組めることがないかなど、でいあーの充実・
発展に向けた検討・導入)

抱負

次に今後の抱負ですが、辻村理事長
から頂戴しました「これまでの行政職と
しての経験を活かして、でいあーの運営・
経営面に尽力してもらいたい」とのお言葉
を胸に、でいあーのセンター長としての
職務に邁進してまいりたいと意を決して
おります。

信頼 関係

いずれの取組にしても、職員の皆
さんと一緒に取り組んで行かないと
実現できないことばかりです。その
ためにも、職員の皆さんとの「信頼
関係」を日々・業務の中で深め・培っ
てまいります。何卒よろしく願いま
します。ありがとうございました。

内向き

内向きには、でいあーに勤務する全
ての職員、相談員だけでなく事務職・
管理職にとっても、働きやすい職場環境
を整備していきたいと考えております。
(例えば、「口伝え」になっているような
勤務関係の内部手続きなどについて、
いずれの職にも負担増とならないような
ルール化(明文化)の整理検討)

人事

令和7年度 新採用正規職員

奈良県発達障害者支援センターでいあー

施設長(センター長)

土井 敏多

極楽坊あすかこども園

保育教諭 栗田 万琴

保育教諭 中村 凜華

あくなみ苑

介護職 藤澤 育代

介護職 岡田 美知恵

愛染寮

管理栄養士 祝前 由美子

調理員 野田 倫子

保育士 染岡 華音

いこま乳児保育園

保育士 中嶋 裕子

児童発達支援センター 仔鹿園

保育士 井上 朋恵

いこま乳児院

保育士 中川 和加

管理栄養士 篠田 理恵

いこまこども園

副園長 石村 吉偉

保育教諭 西原 飛鳥

保育教諭 多田 飛鳥

特別養護老人ホーム梅寿荘

事務員 松本 千奈

特別養護老人ホーム延寿

介護職 辻 明香

看護師 安岡 加織

看護師 肥後 洋一

生駒市梅寿荘地域包括支援センター

介護支援専門員 米田 憲一

令和7年度 異動職員

いこま乳児保育園→いこまこども園

継続再雇用保育士 尾植 初美

こども支援センターあすなろ→愛染寮

児童指導員 渡辺 拓己

いこまこども園→いこま乳児保育園

保育教諭 中川 芽衣

デイセンター寿楽→特別養護老人ホーム梅寿荘

介護職 名越 友美

令和6年度 退職者

極楽坊あすかこども園

保育教諭 下埜 実咲

あくなみ苑

介護職 伊藤 みゆき

介護職 寺谷 望

介護職 上田 小夏

介護職 中村 達史

愛染寮

栄養士 山本 晴香

こども支援センターあすなろ

保育士 樋高 智代

特別養護老人ホーム梅寿荘

調理師 窪田 洋平

介護職 小林 直人

介護職 小林 正慈

いこま乳児院

管理栄養士 細見 繁子

調理師 船田 真希子

保育士 窪田 多貴子

いこまこども園

保育教諭 上嶋 智子

いっば

保育士 奥 克至

第一号第一様式

法人単位資金収支計算書

(自)令和 6年 4月 1日(至)令和 7年 3月31日

(単位:円)

勘定科目		予算(A)	決算(B)	差異(A)-(B)	備考
事業活動による収支	収入				
	介護保険事業収入	1,790,280,000	1,772,762,596	17,517,404	
	老人福祉事業収入	140,611,000	140,159,639	451,361	
	児童福祉事業収入	488,510,000	498,465,223	△9,955,223	
	保育事業収入	867,205,000	881,634,316	△14,429,316	
	障害福祉サービス等事業収入	488,823,000	493,035,009	△4,212,009	
	ヘルパー養成事業収入	350,000	250,000	100,000	
	経常経費寄附金収入	11,663,000	11,834,447	△171,447	
	受取利息配当金収入	3,144,000	3,528,335	△384,335	
	その他の収入	49,571,000	49,730,739	△159,739	
	事業活動収入計(1)	3,840,157,000	3,851,400,304	△11,243,304	
	支出				
	人件費支出	2,753,559,000	2,719,135,011	34,423,989	
施設整備等による収支	事業費支出	551,641,000	530,538,398	21,102,602	
	事務費支出	409,768,000	384,232,530	25,535,470	
	その他の支出	22,530,000	21,805,688	724,312	
	流動資産評価損等による資金減少額	29,000	28,196	804	
	事業活動支出計(2)	3,737,527,000	3,655,739,823	81,787,177	
	事業活動資金収支差額(3)=(1)-(2)	102,630,000	195,660,481	△93,030,481	
	収入				
	施設整備等補助金収入	3,134,000	4,263,255	△1,129,255	
	施設整備等寄附金収入	500,000	500,000	0	
	固定資産売却収入	236,000	232,280	3,720	
	施設整備等収入計(4)	3,870,000	4,995,535	△1,125,535	
	支出				
	固定資産取得支出	38,690,000	38,240,849	449,151	
その他の活動による収支	固定資産除却・廃棄支出	55,123,000	55,122,600	400	
	ファイナンス・リース債務の返済支出	9,597,000	9,575,052	21,948	
	施設整備等支出計(5)	103,410,000	102,938,501	471,499	
	施設整備等資金収支差額(6)=(4)-(5)	△99,540,000	△97,942,966	△1,597,034	
	収入				
	積立資産取崩収入	110,880,000	109,889,275	990,725	
	その他の活動収入計(7)	110,880,000	109,889,275	990,725	
	支出				
	積立資産支出	159,570,000	196,517,000	△36,947,000	
	その他の活動支出計(8)	159,570,000	196,517,000	△36,947,000	
	その他の活動資金収支差額(9)=(7)-(8)	△48,690,000	△86,627,725	37,937,725	
	予備費支出(10)	210,000	—	210,000	
	当期資金収支差額合計(11)=(3)+(6)+(9)-(10)	△45,810,000	11,089,790	△56,899,790	
前期末支払資金残高(12)		865,897,000	865,913,083	△16,083	
当期末支払資金残高(11)+(12)		820,087,000	877,002,873	△56,915,873	

法人単位事業活動計算書

(自)令和 6年 4月 1日(至)令和 7年 3月31日

(単位:円)

勘定科目		当年度決算(A)	前年度決算(B)	増減(A)-(B)
サービス活動増減の部	収益			
	介護保険事業収益	1,772,762,596	1,753,153,251	19,609,345
	老人福祉事業収益	112,437,014	114,500,646	△2,063,632
	児童福祉事業収益	498,465,223	471,689,601	26,775,622
	保育事業収益	881,634,316	846,517,854	35,116,462
	障害福祉サービス等事業収益	493,035,009	484,385,077	8,649,932
	ヘルパー養成事業収益	250,000	250,000	0
	経常経費寄附金収益	11,834,447	12,185,054	△350,607
	サービス活動収益計(1)	3,770,418,605	3,682,681,483	87,737,122
	費用			
	人件費	2,714,836,011	2,663,326,161	51,509,850
	事業費	508,153,498	527,203,329	△19,049,831
	事務費	384,232,530	337,360,281	46,872,249
サービス活動外増減の部	減価償却費	231,884,934	210,783,148	21,101,786
	国庫補助金等特別積立金取崩額	△102,583,021	△96,391,545	△6,191,476
	徴収不能額	28,196	2,400	25,796
	サービス活動費用計(2)	3,736,552,148	3,642,283,774	94,268,374
	サービス活動増減差額(3)=(1)-(2)	33,866,457	40,397,709	△6,531,252
	収益			
	受取利息配当金収益	3,528,335	1,561,420	1,966,915
	基本財産評価益		187,000	△187,000
	投資有価証券評価益		5,002,513	△5,002,513
	その他のサービス活動外収益	49,730,739	33,806,461	15,924,278
	サービス活動外収益計(4)	53,259,074	40,557,394	12,701,680
	費用			
	基本財産評価損	1,262,000		1,262,000
特別増減の部	投資有価証券評価損	23,712,436		23,712,436
	その他のサービス活動外費用	21,805,688	21,445,715	359,973
	サービス活動外費用計(5)	46,780,124	21,445,715	25,334,409
	サービス活動外増減差額(6)=(4)-(5)	6,478,950	19,111,679	△12,632,729
	経常増減差額(7)=(3)+(6)	40,345,407	59,509,388	△19,163,981
	収益			
	施設整備等補助金収益	4,263,255	367,797,136	△363,533,881
	施設整備等寄附金収益	500,000	8,588,000	△8,088,000
	固定資産受贈額	2,000,000		2,000,000
	固定資産売却益	232,276	44,998	187,278
	特別収益計(8)	6,995,531	376,430,134	△369,434,603
	費用			
	基本金組入額		8,588,000	△8,588,000
繰越活動増減差額の部	固定資産売却損・処分損	106,076,695	120,907,112	△14,830,417
	国庫補助金等特別積立金取崩額(除却等)		△30,182,482	30,182,482
	国庫補助金等特別積立金積立額	4,263,255	341,867,136	△337,603,881
	特別費用計(9)	110,339,950	441,179,766	△330,839,816
	特別増減差額(10)=(8)-(9)	△103,344,419	△64,749,632	△38,594,787
	当期活動増減差額(11)=(7)+(10)	△62,999,012	△5,240,244	△57,758,768
	前期繰越活動増減差額(12)	1,754,367,436	1,500,907,680	253,459,756
	当期末繰越活動増減差額(13)=(11)+(12)	1,691,368,424	1,495,667,436	195,700,988
	基本金取崩額(14)			
	その他の積立金取崩額(15)	79,110,000	441,500,000	△362,390,000
	その他の積立金積立額(16)	160,400,000	182,800,000	△22,400,000
	次期繰越活動増減差額(17)=(13)+(14)+(15)-(16)	1,610,078,424	1,754,367,436	△144,289,012

法人単位貸借対照表
令和 7年 3月31日現在

(単位:円)

資産の部				負債の部			
	当年度末	前年度末	増減		当年度末	前年度末	増減
流動資産	1,073,202,961	1,475,484,050	△ 402,281,089	流動負債	307,242,376	724,338,019	△ 417,095,643
現金預金	564,567,510	652,842,292	△ 88,274,782	事業未払金	143,073,028	146,483,322	△ 3,410,294
事業未収金	446,249,246	402,619,728	43,629,518	その他の未払金	0	397,219,000	△ 397,219,000
未収金	603,998	77,636	526,362	1年以内返済予定リース債務	8,664,288	8,090,052	574,236
未収補助金	45,367,647	410,869,853	△ 365,502,206	預り金	584,417	1,134,707	△ 550,290
貯蔵品	809,790	98,980	710,810	職員預り金	52,542,643	64,733,938	△ 12,191,295
立替金	907,095	711,839	195,256	賞与引当金	102,378,000	106,677,000	△ 4,299,000
前払金	10,316,830	1,759,780	8,557,050				
前払費用	3,375,845	5,598,942	△ 2,223,097				
短期貸付金	1,005,000	905,000	100,000				
固定資産	5,954,432,824	6,124,157,719	△ 169,724,895	固定負債	497,966,453	491,558,016	6,408,437
基本財産	3,641,881,875	3,819,716,543	△ 177,834,668	設備資金借入金	350,000,000	350,000,000	0
土地	323,061,540	323,061,540	0	リース債務	16,608,028	15,537,316	1,070,712
建物	3,315,630,335	3,492,203,003	△ 176,572,668	長期預り金	131,358,425	126,020,700	5,337,725
投資有価証券	3,190,000	4,452,000	△ 1,262,000	負債の部合計	805,208,829	1,215,896,035	△ 410,687,206
その他の固定資産	2,312,550,949	2,304,441,176	8,109,773	純資産の部			
土地	4,433,872	4,433,872	0	基本金	787,653,360	787,653,360	0
建物	6,002,073	6,667,506	△ 665,433	国庫補助金等特別積立金	1,999,024,086	2,097,343,852	△ 98,319,766
構築物	137,279,670	135,601,205	1,678,465	その他の積立金	1,825,671,086	1,744,381,086	81,290,000
機械及び装置	0	1	△ 1	人件費積立金	235,250,000	205,730,000	29,520,000
車輛運搬具	8,457,220	4,038,175	4,419,045	施設整備等積立金	1,175,330,000	1,149,940,000	25,390,000
器具及び備品	104,187,540	116,431,029	△ 12,243,489	ひめゆり基金運営積立金	31,148,000	28,768,000	2,380,000
建設仮勘定	0	50,000,000	△ 50,000,000	社会福祉事業等運営積立金	182,200,000	159,200,000	23,000,000
有形リース資産	29,097,778	26,242,857	2,854,921	公益事業等運営積立金	119,365,000	118,365,000	1,000,000
ソフトウェア	186,084	370,584	△ 184,500	福祉基金積立金	82,378,086	82,378,086	0
無形リース資産	0	664,524	△ 664,524	次期繰越活動増減差額	1,610,078,424	1,754,367,436	△ 144,289,012
投資有価証券	65,577,201	89,289,637	△ 23,712,436	(うち当期活動増減差額)	△ 62,999,012	△ 5,240,244	△ 57,758,768
長期預り金積立資産	131,358,425	126,020,700	5,337,725				
人件費積立資産	235,250,000	205,730,000	29,520,000				
施設整備等積立資産	1,175,330,000	1,149,940,000	25,390,000				
ひめゆり基金運営積立資産	31,148,000	28,768,000	2,380,000				
社会福祉事業等運営積立資産	182,200,000	159,200,000	23,000,000				
公益事業等運営積立資産	119,365,000	118,365,000	1,000,000				
福祉基金積立資産	82,378,086	82,378,086	0				
差入保証金	300,000	300,000	0	純資産の部合計	6,222,426,956	6,383,745,734	△ 161,318,778
資産の部合計	7,027,635,785	7,599,641,769	△ 572,005,984	負債及び純資産の部合計	7,027,635,785	7,599,641,769	△ 572,005,984

◆編集後記

日本で初めて開催された1970年のEXPO'70大阪万博から55年の時を経て、EXPO'2025大阪・関西万博が華々しく開幕しました。55年前、遠足で行ったアメリカ館の長蛇の列に並んで、アポロ計画で持ち帰られた「月の石」をやっと見る事が出来たことを覚えています。今回のアメリカ館では、アポロ17号で持ち帰られた新たな「月の石」を見ることができるそうです。次、日本でいつ開催できるかわからない万国博覧会と思うと「行かなくては!」と計画されている方も多いのではないのでしょうか。暑さ対策に十分気を付けて楽しんでくださいね。(森本)